

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-13160

(P2010-13160A)

(43) 公開日 平成22年1月21日(2010.1.21)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 65/10 (2006.01)	B 6 5 D 65/10 A	3 E 0 3 5
B 6 5 D 85/50 (2006.01)	B 6 5 D 65/10 B	3 E 0 6 7
B 6 5 D 75/62 (2006.01)	B 6 5 D 85/50 E	3 E 0 8 6
B 6 5 D 77/36 (2006.01)	B 6 5 D 75/62 Z	4 B 0 2 3
A 2 3 L 1/10 (2006.01)	B 6 5 D 77/36	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 10 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2008-175168 (P2008-175168)	(71) 出願人	591016080
(22) 出願日	平成20年7月4日 (2008.7.4)		株式会社スズパック
			大阪府大阪市西区西本町1丁目5番3号
			扶桑ビル
		(74) 代理人	100072213
			弁理士 辻本 一義
		(74) 代理人	100119725
			弁理士 辻本 希世士
		(74) 代理人	100129975
			弁理士 上野 康成
		(72) 発明者	清水 渡
			大阪府大阪市西区西本町1丁目5番3号
			株式会社スズパック内
		Fターム(参考)	3E035 AA10 AB10 BA08 BB08 BC02 CA08

最終頁に続く

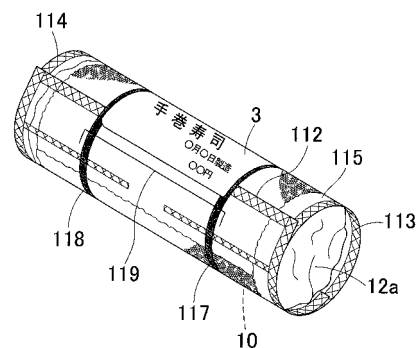
(54) 【発明の名称】 棒状食品包装体

(57) 【要約】

【課題】 接着ラベルによって包装材の巻き終わり部分を固定していても、容易に開封することが可能な棒状食品包装体を提供すること。

【解決手段】 この棒状食品包装体は、シート状食品10を収容した略長方形の袋状の本体の左右側部に袖部12aを設けてなる包装材と、包装材に巻かれた棒状食品と、包装材の巻き終わり部分を固定する接着ラベル3からなり、包装材の本体の下辺112を巻き終わり部分としており、外フィルム部115には、間に接着ラベル3を挟んで上辺111付近から下辺112付近に至る2本のカットテープ117、118を設けているとともに、接着ラベル3の位置より上辺側に、外フィルム部115が前記カットテープ117、118に沿って引き裂かれるように案内するための開封操作片119を設けたものとしている。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

シート状食品を収容した略長方形の袋状の本体の左右側部に袖部を設けてなる包装材と、包装材に巻かれた棒状食品と、包装材の巻き終わり部分を固定する接着ラベルからなり、包装材はその袖部が棒状食品の左右端部を覆い、本体の下辺を巻き終わり部分としており、包装材の本体は、外フィルム部と内フィルム部とで構成され、内フィルム部は開封時に左右に分離する第 1 片及び第 2 片からなるものとし、外フィルム部には、間に接着ラベルを挟んで上辺付近から下辺付近に至る 2 本のカットテープを設けているとともに、接着ラベルの位置より上辺側に、外フィルム部が前記カットテープに沿って引き裂かれるように案内するための開封操作片を設けていることを特徴とする棒状食品包装体。

10

【請求項 2】

2 本のカットテープが上下方向に延びる平行な直線状である請求項 1 記載の棒状食品包装体。

【請求項 3】

2 本のカットテープがそれぞれ左右方向の外側に膨らむように設けられている請求項 1 記載の棒状食品包装体。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この発明は、米飯等の食材を棒状に加工した棒状食品と、海苔巻等のシート状食品とが分離された状態で包装され、食するときに簡単な操作で棒状食品にシート状食品を巻いた状態にすることができるようにした棒状食品包装体に関するものである。

20

【背景技術】**【0002】**

従来、巻き寿司等の棒状食品用包装体としては、特許文献 1 に記載のものがある。この棒状食品用包装体は、外フィルム 1 の長辺側の両側部に、一对の内フィルム 2, 3 を外フィルム 1 の幅方向の略中央にて対向辺 2a, 3a どうしを重ね合わせた状態で外フィルム 1 の周囲と接合して袋状に形成し、さらに外フィルム 1 と内フィルム 2, 3 の間にシート状食品 4 を挟み、さらに外フィルム 1 の短辺側端に開封用切り込み 1a, 1b, 1c を複数形成した棒状食品用包装材であって、内フィルム 2, 3 が、内側面にシリコンコートされ、且つ外フィルム 1 の長辺側端より突出する幅広のものであり、さらに内フィルム 2, 3 の外フィルム 1 より突出した部分 2b, 3b で内フィルム 2, 3 上に乗せた棒状食材 5 の端面を包被するようにしている。

30

【0003】

この特許文献 1 に記載の棒状食品用包装体は、その図 6 に示されているように、開封用切り込み 1b を略中央に、開封用切り込み 1c を端付近に形成し、開封用切り込み 1b, 1c と同一幅で綺麗に平行に裂けるようになっているので、外フィルム 1 を裂くと、シート状食品 4 が表れ、残された外フィルム 1 と内フィルム 3 を棒状食品の軸方向外側に引くと、棒状食材 5 の上にシート状食品 4 が巻かれた状態にすることができる。

【0004】

しかしながら、コンビニエンスストア等で販売される棒状食品用包装体は、商品の価格や製造年月日、バーコード等を印字したサーマルラベル等の接着ラベルによって包装材の巻き終わり部分を固定する場合が多く、その場合は巻き終わり部分の中央に位置する開封用切り込み 1b を接着ラベルが覆うことになるため、外フィルム 1 をうまく引裂くことができない。

40

【0005】

また、開封用切り込み 1b を避けて比較的細幅の接着テープで包装材の巻き終わり部分を固定するとしても、特許文献 1 の図 6 に示されているように、包装材が巻かれたままの状態を開封することになる。この場合は、棒状食品に包装材が巻き付いた状態にあるので、内フィルム 2, 3 の内側面にシリコンコートをしていなければ、フィルムを取り去ること

50

は困難であるが、シリコンコートは安全性の面で好まれないことが多い。

【特許文献 1】特開平 1 1 - 2 0 6 3 2 8 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 6】

そこで、この発明は、接着ラベルによって包装材の巻き終わり部分を固定していても、容易に開封することが可能な棒状食品包装体を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0 0 0 7】

前記課題を解決するため、この発明は次のような技術的手段を講じている。

10

【0 0 0 8】

この発明の棒状食品包装体は、シート状食品を収容した略長方形の袋状の本体の左右側部に袖部を設けてなる包装材と、包装材に巻かれた棒状食品と、包装材の巻き終わり部分を固定する接着ラベルからなり、包装材はその袖部が棒状食品の左右端部を覆い、本体の下辺を巻き終わり部分としており、包装材の本体は、外フィルム部と内フィルム部とで構成され、内フィルム部は開封時に左右に分離する第 1 片及び第 2 片からなるものとし、外フィルム部には、間に接着ラベルを挟んで上辺付近から下辺付近に至る 2 本のカットテープを設けているとともに、接着ラベルの位置より上辺側に、外フィルム部が前記カットテープに沿って引き裂かれるように案内するための開封操作片を設けたものとしている。

【0 0 0 9】

20

さらに、2 本のカットテープが上下方向に延びる平行な直線状であるものとすることができる。

【0 0 1 0】

また、2 本のカットテープがそれぞれ左右方向の外側に膨らむように設けられているものとすることができる。

【発明の効果】

【0 0 1 1】

この発明の棒状食品包装体は、上述のような構成を有しており、2 本のカットテープにより外フィルム部を引き裂いて、両カットテープ間の部分を接着ラベルとともに取り去り、包装材を左右に分割した状態にして、包装材を容易に取り去ることができる。しかも、分割された包装材は、上辺側と下辺側が開いて棒状食品に対する巻き付けの力が弱まった状態になるので、各分割された包装材を取り去る際にそれほど強い力を要しない。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0 0 1 2】

この棒状食品包装体は、シート状食品 1 0 を収容した略長方形の袋状の本体 1 1 の左右側部に袖部 1 2 a , 1 2 b を設けてなる包装材 1 と、包装材 1 に巻かれた棒状食品 2 と、包装材 1 の巻き終わり部分を固定する接着ラベル 3 からなり、包装材 1 はその袖部 1 2 a , 1 2 b が棒状食品 2 の左右端部を覆い、本体 1 1 の下辺 1 1 2 を巻き終わり部分としており、包装材 1 の本体 1 1 は、外フィルム部 1 1 5 と内フィルム部 1 1 6 とで構成され、内フィルム部 1 1 6 は開封時に左右に分離する第 1 片 1 1 6 a 及び第 2 片 1 1 6 b からなるものとし、外フィルム部 1 1 5 には、間に接着ラベル 3 を挟んで上辺 1 1 1 付近から下辺 1 1 2 付近に至る 2 本のカットテープ 1 1 7 , 1 1 8 を設けているとともに、接着ラベル 3 の位置より上辺 1 1 1 側に、外フィルム部 1 1 5 が前記カットテープ 1 1 7 , 1 1 8 に沿って引き裂かれるように案内するための開封操作片 1 1 9 を設けたものとしている。

40

【0 0 1 3】

以下、この発明の好適な実施形態を、図面を参照して説明する。

【0 0 1 4】

図 1 はこの発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体の包装材 1 の正面図（外フィルム部 1 1 5 側を表側にした状態）、図 2 は同背面図（内フィルム部 1 1 6 側を表側にした状態）、図 3 は包装材 1 で棒状食品 2 を包む様子を示す説明図、図 4 は完成状態の棒状食品包装

50

体の斜視図、図 5 はカットテープ 117, 118 に沿って外フィルム部 115 を引き裂いた状態を示す斜視図、図 6 は左右に分割された包装材 1 の一方を取り去る様子を示す正面図、図 7 は包装材 1 を取り去って棒状食品 2 にシート状食品 10 を巻いた状態を示す斜視図である。

【0015】

なお、説明の便宜のため、図 1 に示した場合を基準にして、包装材 1 の本体 11 の上辺 111、下辺 112、左辺 113、右辺 114 等、上下左右の方向を定めている。

【0016】

包装材 1 は、図 1、図 2 等にしたように、略長方形の外フィルム部 115、外フィルム部 115 に重なる内フィルム部 116、左右の袖部 12a, 12b、及び外フィルム部 115 と内フィルム部 116 とにより形成される収納部 13 に収納されるシート状食品 10 から構成されている。

10

【0017】

外フィルム部 115 と内フィルム部 116 は、それぞれ防湿性を有する同じ大きさの略長形状のフィルムとしている。内フィルム部 116 を構成する第 1 片 116a と第 2 片 116b は、互いの内側縁が、左右方向の略中央において 1cm 程度の幅で上下に重なるようにしている。

【0018】

外フィルム部 115 と内フィルム部 116 は、互いの左右両側の縁部と、前記第 1 片 116a 及び第 2 片 116b が重なる箇所を除く上下両側の縁部が熱溶着等により接合されている。

20

【0019】

左右の各袖部 12a, 12b は、棒状食品 2 の左右端部を覆うことができる程度の大きさの四角形であり、包装材 1 の本体 11 の上下方向の略中央部において、その内側縁が、内フィルム部 116 の左右の縁部に熱溶着等により接合されている。

【0020】

外フィルム部 115 は、OPP (延伸ポリプロピレン) 等の合成樹脂製の透明なフィルムとし、適宜の文字や模様の印刷を施したものとすることができる。内フィルム部 116 や袖部 12a, 12b は、外フィルム部 115 と同様の素材からなるものとすることができるが、マットフィルムや、高密度ポリエチレンのような、棒状食品 2 にくっつきにくい素材を用いることが望ましい。

30

【0021】

外フィルム部 115 の表面には、2 本のカットテープ 117, 118 が設けられている。この実施形態では、各カットテープ 117, 118 は、上辺 111 から下辺 112 に至る、外フィルム部 115 の中央から等距離にある互いに平行な直線状としている。

【0022】

なお、各カットテープ 117, 118 は、必ずしも上辺 111、下辺 112 にまで達する必要はなく、後述の開封作業に支障がない程度の長さ以外フィルム部 115 が引き裂かれるようになっていればよい。また、両カットテープ 117, 118 の間隔は、接着ラベル 3 の左右方向の幅と略同一としているが、より長い間隔としてもよい。

40

【0023】

開封操作片 119 は、外フィルム部 115 の下辺 112 付近における左右方向の略中央で、収納部 13 の外側に位置している。この実施形態では、両カットテープ 117, 118 間にわたる左右方向の切れ目を形成して開封操作片 119 を設けている。さらに、この開封操作片 119 は、前記切り目の両端が、各カットテープ 117, 118 を乗り越え、上辺 111 側に突出した略コ字状とし、より容易に開封できるようにしている。

【0024】

なお、開封操作片 119 は、パートコート等により、内フィルム部 116 に比較的容易に剥離できるように接着されたものとして、包装材 1 の密閉性が損なわれないようにすることが望ましい。

50

【 0 0 2 5 】

外フィルム部 1 1 5 と内フィルム部 1 1 6 との間には、周縁部の内側にシールされていない領域があり、この部分がシート状食品 1 0 を収容する収納部 1 3 となっている。シート状食品 1 0 は、海苔や、ゼラチンでシート状に形成された鰹節や昆布等であり、適宜選択使用される。シート状食品 1 0 の収納部 1 3 への収容作業は、手作業で行う方法、機械で自動的に挿入する方法のいずれで行ってもよい。

【 0 0 2 6 】

棒状食品 2 は、円柱状に形成されたものであって、中に具を入れた米飯、練り物、餅等とすることができる。包装材 1 で棒状食品 2 を包装するには、内フィルム部 1 1 6 を表側にして置き、棒状食品 2 を、その左右各端部が左右の袖部 1 2 a , 1 2 b 付近に位置するようにして内フィルム部 1 1 6 の上にのせる。

10

【 0 0 2 7 】

次に、図 3 に示したように、左右の袖部 1 2 a , 1 2 b で棒状食品 2 の左右各端部を覆い、包装材 1 の本体 1 1 を棒状食品 2 に巻き付ける。包装材 1 の本体 1 1 は、下辺 1 1 2 側を巻き終わりの部分として、上辺 1 1 1 側の上に 3 c m 程度重なるようにする。

【 0 0 2 8 】

そして、図 4 に示したように、開封操作片 1 1 9 より下辺 1 1 2 側の部分から上辺 1 1 1 側の露出した部分にわたるように、接着ラベル 3 を貼り付けて巻き終わりの部分を固定する。接着ラベル 3 は、2 本のカットテープ 1 1 7 , 1 1 8 の外側にはみ出さないようにして貼り付ける。このようにして棒状食品包装体が完成し、コンビニエンスストア等で販売できる状態となる。

20

【 0 0 2 9 】

接着ラベル 3 は、商品名や製造年月日、バーコード等を印字したサーマルラベルであり、外フィルム部 1 1 5 に対して剥離可能なものとし、開封時に前記下辺 1 1 2 側との接着箇所を剥離して、包装材 1 の棒状食品 2 に対する巻き付け状態を解除できるようにしている。あるいは、前記下辺 1 1 2 に沿って接着ラベル 3 を切ることにより、巻き付け状態を解除できるようにしてもよい。

【 0 0 3 0 】

この棒状食品包装体を開封するには、まず開封操作片 1 1 9 を指でつまんで上辺 1 1 1 側へ引っ張る。開封操作片 1 1 9 を引っ張ると、外フィルム部 1 1 5 の左右両辺間の中央部が、上辺 1 1 1 に至るまで 2 本のカットテープ 1 1 7 , 1 1 8 に沿って引き裂かれ、図 5 に示したように、左右に分割した部分 1 1 5 a , 1 1 5 b ができ、両カットテープ間の中央部分 1 1 5 c が分離する。

30

【 0 0 3 1 】

また、内フィルム部 1 1 6 (第 1 片 1 1 6 a , 第 2 片 1 1 6 b)、袖部 1 2 a , 1 2 b は、もともと左右に分離しているため、外フィルム部 1 1 5 が左右に分割した包装材 1 は、左右に分割した状態になる。なお、包装材 1 又は外フィルム部 1 1 5 に関し「左右に分割」とは、完全に左右の部分が分離した状態だけでなく、図 5 のような下辺 1 1 2 付近を残して一部がつながっている場合も含まれる。要するに、後述の開封作業において、シート状食品 1 0 を残して、包装材 1 の左右の部分をそれぞれ取り外せる程度の長さの外フィルム部 1 1 5 が引き裂かれていればよい。

40

【 0 0 3 2 】

接着ラベル 3 は、前記中央部分 1 1 5 c に接着したまま、外フィルム部 1 1 5 の巻き終わり部分 (本体 1 1 の下辺 1 1 2) からはずれるので、この棒状食品包装体は、包装材 1 の棒状食品 2 に対する巻き付け状態が解除され、図 5 に示したように、略中央に棒状食品 2 が位置しつつ、包装材 1 を、略 U 字状に上辺 1 1 1 側と下辺 1 1 2 側が開いた状態にすることができる。

【 0 0 3 3 】

そして、この状態の棒状食品包装体を手のひら等に乗せつつ、図 6 に示したように、シート状食品 1 0 を残して、各分割した包装材 1 を片方ずつ外方に引っ張って取り去る。こ

50

の際、各分割した包装材 1 は、前述の通り上辺 1 1 1 側と下辺 1 1 2 側が開いて、棒状食品 2 に対する巻き付けの力が弱まった状態にあるので、それほど強い力で引っ張らなくとも、容易に取り去ることが可能である。

【0034】

包装材 1 は、もともと外フィルム部 1 1 5 と内フィルム部 1 1 6 の互いの周縁部が接合されてつながっているため、分割した外フィルム部 1 1 5 a と内フィルム部 1 1 6 の第 1 片 1 1 6 a、分割した外フィルム部 1 1 5 b と内フィルム部 1 1 6 の第 2 片 1 1 6 b は、それぞれつながっており、一緒に取り去られる。また、左右の各袖部 1 2 a, 1 2 b も、それぞれ内フィルム部 1 1 6 の第 1 片 1 1 6 a と第 2 片 1 1 6 b につながっているため、一緒に取り去られる。

10

【0035】

そして、包装材 1 をすべて取り去った後、残ったシート状食品 1 0 を棒状食品 2 に巻きつけることにより、図 7 に示したように、食べられる状態の棒状食品 2 が完成する。

【0036】

図 8 は、この発明の第 2 実施形態の棒状食品包装体の包装材 1 の正面図（外フィルム部 1 1 5 側を表側にした状態）である。この実施形態では、外フィルム部 1 1 5 上において、2 本のカッテープ 1 1 7, 1 1 8 がそれぞれ左右方向の外側に膨らむように設けられている。各カッテープ 1 1 7, 1 1 8 は曲線状であり、上下方向の中央付近でそれぞれ包装材 1 の本体 1 1 の左辺 1 1 3、右辺 1 1 4 に最も接近し、上辺 1 1 1 付近及び下辺 1 1 2 付近の左右方向の中央部で互いに交叉する。開封操作片 1 1 9 は、下辺 1 1 2 側の前記カッテープ 1 1 7, 1 1 8 の交差箇所付近に設けられている。

20

【0037】

その他の構成は前述の第 1 実施形態と同様である。この第 2 実施形態では、開封操作片 1 1 9 の幅を接着ラベル 3 の幅よりも小さくすることが可能であり、より密閉性に優れたものとすることができる。

【0038】

以上がこの発明の実施形態であるが、この発明は、前述の実施形態に限定されるものではなく、素材、形状、寸法等を適宜変更して実施することができる。

【図面の簡単な説明】

【0039】

30

【図 1】この発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体の包装材の正面図である。

【図 2】この発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体の包装材の背面図である。

【図 3】この発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体の完成状態の斜視図である。

【図 4】この発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体の斜視図（完成状態）である。

【図 5】この発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体をカッテープに沿って外フィルム部を引き裂いた状態を示す斜視図である。

【図 6】この発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体の左右に分割された包装材の一方を取り去る様子を示す正面図である。

【図 7】この発明の第 1 実施形態の棒状食品包装体の包装材を取り去って棒状食品にシート状食品を巻いた状態を示す斜視図である。

40

【図 8】この発明の第 2 実施形態の棒状食品包装体の包装材の正面図である。

【符号の説明】

【0040】

1 包装材

1 0 シート状食品

1 1 包装材の本体

1 1 1 包装材の本体の上辺

1 1 2 包装材の本体の下辺

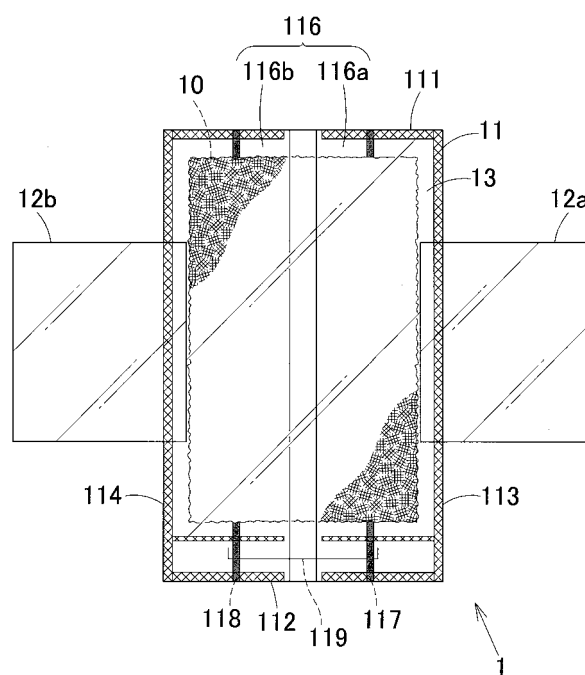
1 1 5 外フィルム部

1 1 6 内フィルム部

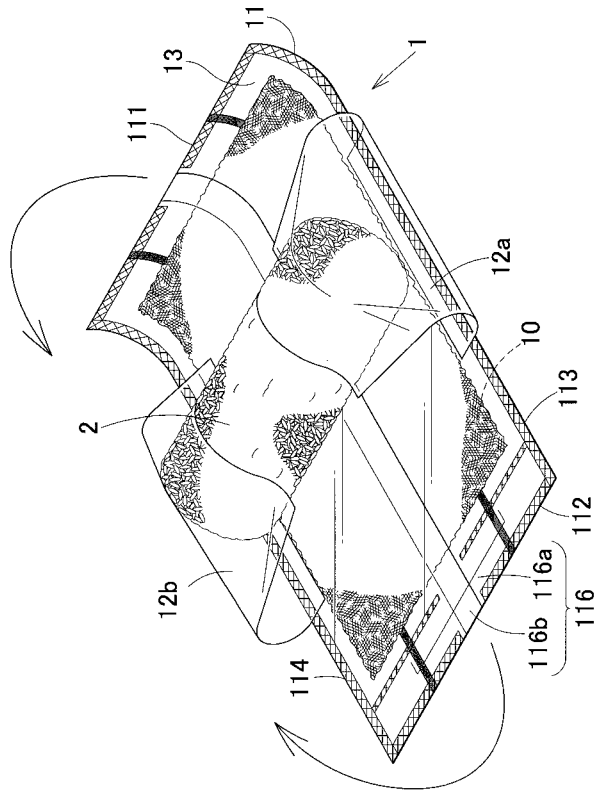
50

- ### 3 接着ラベル

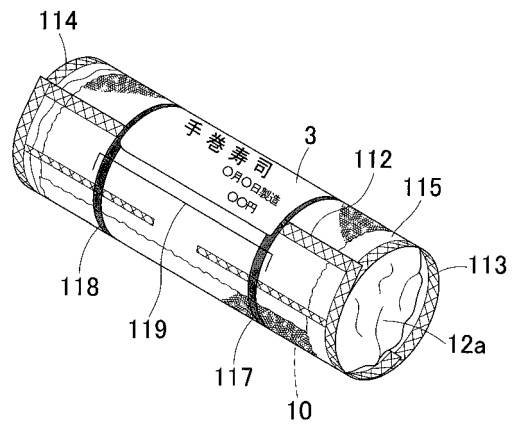
【 図 2 】



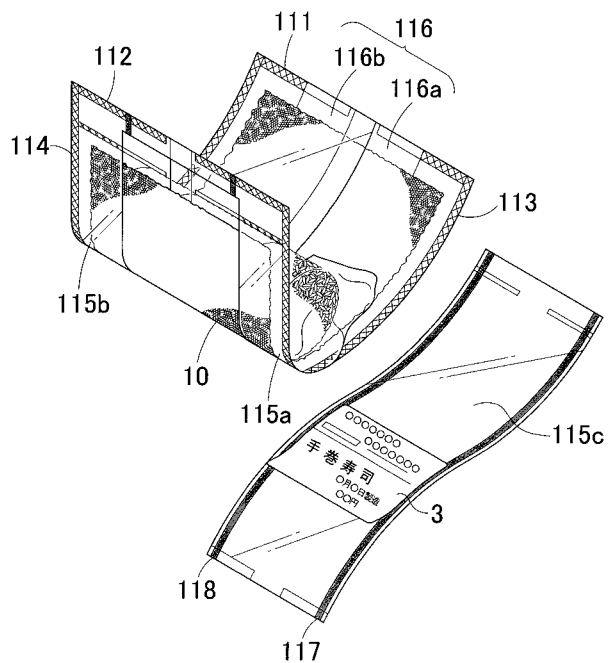
【図 3】



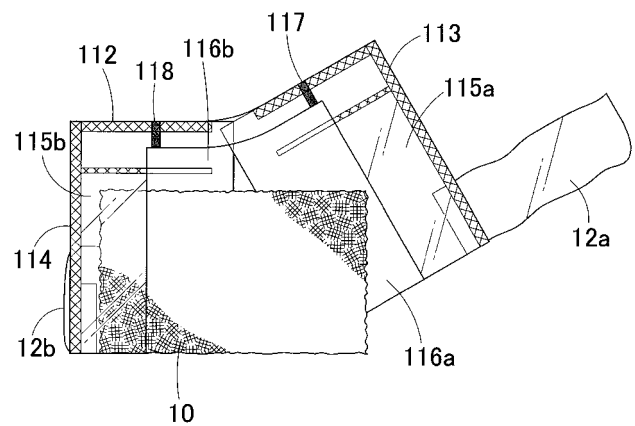
【図 4】



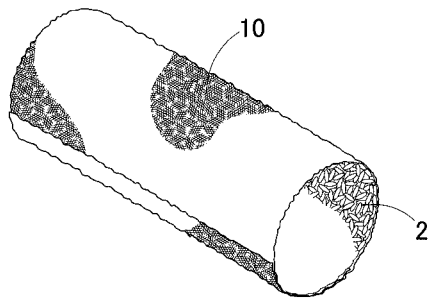
【図 5】



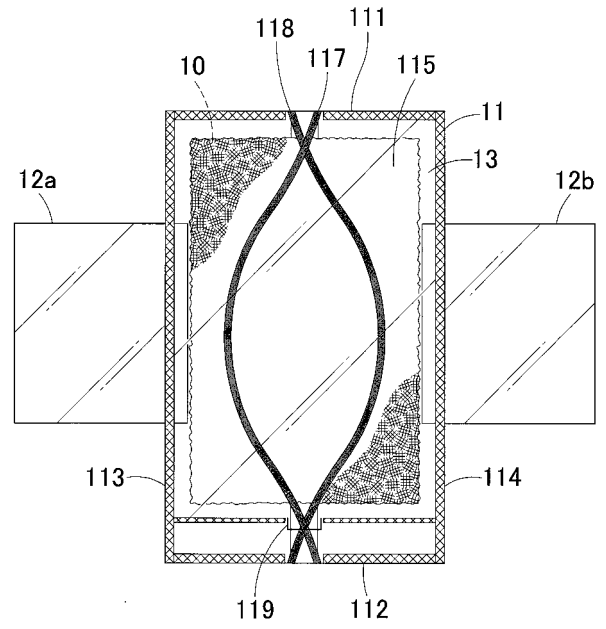
【図 6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

テーマコード(参考)

A 2 3 L 1/10

F

F ターム(参考) 3E067 AA14 AB13 AC03 AC04 AC05 BA15A BA15B BA15C BA32A BA32B
BA32C BB14A BB14B BB14C BB24A BB24B BB24C BC04A BC04B BC04C
EA04 EA23 EA24 EB08 EB09 EB11 EB20 EC27 ED03 EE04
EE06 EE59 GD02
3E086 AB01 AC14 AC15 AD13 BA04 BA15 CA02
4B023 LE16 LP18